

キャラクター名
東鬼 周 (しのぎ あまね)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	狙撃手選手の指導員
	サラマンダー					
オプション			年齢	23	性別	?
覚醒	生誕	衝動	飢餓	初期侵食率	31	%
出自	複数の兄弟姉妹	経験	古強者	邂逅	同行者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	4	0	0			4	行動値	16
感覚	0	1	0	6		7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	2	0	0	2		4	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	3	2	RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志		3	調達	6	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
スナイパーライフル	射撃	7r+5		11		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
エターナルブレイズ	P	N			
メモリー:プリキュアおじたん	P	N			
メモリー:虚西	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	20	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:サラマンダー	2	2	メジャー			サラマンダー		
効果: クリティカル値-LV								
炎の加護	5	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 判定ダイス+LV								
炎の刃	7	2	メジャー	武器	対決	射撃		
効果: 攻撃力+LV×2								
アマテラス	5	4	メジャー	至近	対決	射撃	リミット	
効果: 攻撃力+LV×4、ダイス-2								
極圏の覇者	5	5	オート	至近	自身	自動	120	
効果: 判定ダイス+LV×2								
エターナルブレイズ	5	4	セットアップ	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: 攻撃力+LV×4、行動値-5								
氷の回廊	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 飛行 移動+LV×2 m								
結合粉碎	5	4	メジャー			自動		
効果: 装甲無視。判定ダイス+LV								
氷熱の軍団	7	10	イニシアチブ	視界	シーン	自動	120	
効果: 対象が行う攻撃力+LV*4								
氷神の悲しみ	5	3	メジャー					
効果: 判定ダイスLv+1 HP3消費								
煉獄魔神	5	3	メジャー					
効果: 攻撃力LV*3 HP消費無効								
自動体温	1							
効果:								
効果:								

パーソナル
飄々としていてつかみどころがない鮎ちゃん絶対上げるマン。どこからともなく鮎を取り出してはあげている。ちなみに不二家のポップキャンディで本人はグレープ味が大好き。いつも鮎をなめている。
性別不明で140cmということもあり突飛ばされるように押されると体を支えられずすぐ転ぶ。僕っ子。
幼いころからずっと自分より年下の子の世話を見ていたので面倒見がいい。その反面、甘えることやぬくもりを知らずに生きているのでいつも何か物足りなさがある。何が自分には足りないのか何が欲しいのかは周自身分かっていない。(衝動: 飢餓)

来歴
生誕時…生まれた時からオーヴァード管理下の孤児院育ち。どうやら雨の日にゴミ捨て場に捨てられていたらしく、オーヴァードに理解がある人から保護して現在にいるらしい。
幼少期…生まれた時からオーヴァードだった彼にとって、すべてが違うものに見えていた。自分がどういう状況なのか、他の子とどうやら自分は違うらしいということも知りつつ、達観していた。しかし、それがどうやらおかしいと気づき始めた彼は、普通の子と同じようにふるまうために、人間観察を始めた。そこからだんだん子供らしく振舞うように覚えた。自分より小さい子の面倒は見、自分より大きい子のほうの喧嘩や言い争いから小さい子を守るように、でも子どもらしく振舞うことは忘れずに行動していた。でも、彼自身愛らしくふるまいつつも、心のどこかには空洞があった。何が足りないのか、何が欲しいのか、どうすればいいのか…本当の自分自身で決めたことは、なかった。周りに合わせて決めていた、それが彼。
UGNチルドレン期…他の子と変わりなく、ふるまうことを覚えていた彼。自分だけ身長が伸びていないということもあり、可愛がられる毎日。でもこうすることが彼にとっては普通だと思っていた。この時に、自分がどう接すればいいかと考えていることを悟られないように鮎を渡すようになった。自分が悩んでいることや子どもらしくない行動をしないように考えていることを悟られないように。
UGNエージェントとして活動する動機…表向きは、自分の大切なものを守るため。裏は、その大切なものを探すため。
自分は大変なもの何か、自分にとって足りないものは何か…それを考えた彼は学ぶ。「大切なもの」を作ればいいのだと。その「大切なもの」を守るために、自分の力を使えばいいのだと。どこだろうか、自分の「大切なもの」。早く会いたい。
そしてようやく見つける。自分の居場所が「大切なもの」だということに。その自分の居場所、大切なものを壊すやつから、守ればいいのだと。そのためなら…